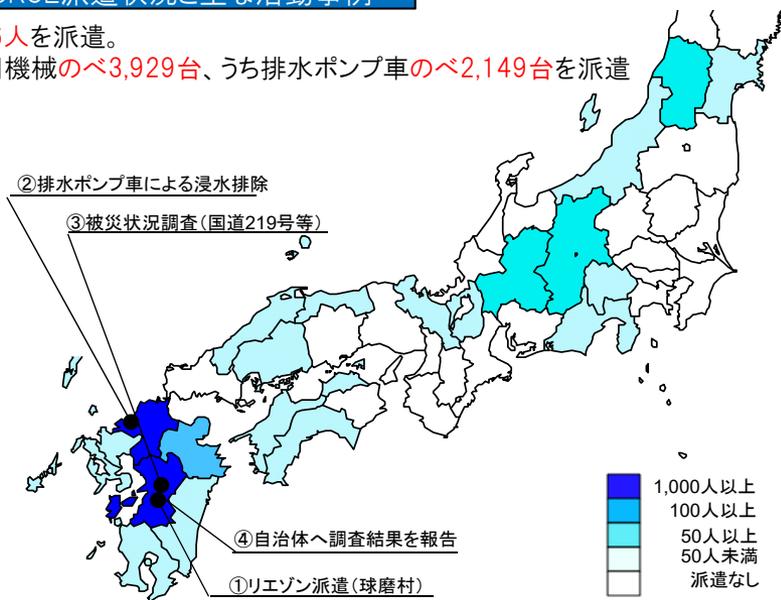


- 発災直後より全国の地方整備局等から、九州、中国、近畿、中部等22府県67市町村へ、のべ10,606人のTEC-FORCEを派遣。リエゾン活動、被災状況調査、排水ポンプ車による浸水排除等の自治体支援を実施。
- これまでに、9県21市町村で被災状況調査を行い、8月3日までに、1,718件の施設被害等を報告。激甚災害の早期指定に寄与。
- 市町村長への助言、被災状況収集等のため、リエゾンを15県41市町村へ派遣。テックフォースや災対機械の派遣調整等を実施。
- 甚大な被害を受けた国道219号をはじめ、自治体管理道路の被災状況調査に、のべ2,761人を投入。1,270件の施設被害を報告。
- 球磨川流域等にのべ1,353人の隊員を投入。被害の大きい9支川(川内川、小川等)を中心に調査。351件の施設被害を報告。

※被害報告件数は8月3日時点

TEC-FORCE派遣状況と主な活動事例

のべ10,606人を派遣。
災害対策用機械のべ3,929台、うち排水ポンプ車のべ2,149台を派遣



TEC-FORCE派遣内容別のべ派遣数および施設被害報告件数

派遣内容	のべ派遣数	被害報告件数
リエゾン、JETT(気象庁)	2,211	—
先遣班等	1,325	—
被災状況調査班	5,150	1,718
うち、河川	1,353	351
うち、砂防	688	97
うち、道路	2,761	1,270
応急対策班等	1,874	—
高度技術指導班	46	—
計	10,606	—

※被害報告件数は8月3日時点

①リエゾン派遣(球磨村)

村長へ災害対応を助言。庁舎が被災した球磨村へ災対本部車を派遣し本部運営を支援。



村長と対応方針を調整(熊本県球磨村)

②排水ポンプ車による浸水排除

球磨川、筑後川周辺等の浸水に対し、九州全体約50台体制で排水を実施



排水活動状況(福岡県久留米市)

③被災状況調査(国道219号等)

球磨川本川および支川において14橋が流失。寸断した道路に分け入り、啓開方針を策定。



国道219号(熊本県球磨村)

④被災自治体へ調査結果を報告

被災自治体が被害額算定や査定設計書の作成に活用。早期の激甚指定にも寄与。



各首長へ調査結果報告

令和2年7月豪雨への派遣(九州地整管内)

- 発災直後より全国の地方整備局等から、九州内へTEC-FORCEを派遣。リエゾン活動、被災状況調査、排水ポンプ車による浸水排除等自治体支援を実施。(一日あたり最大355人、のべ10,197人)
- 市町村長への助言、被災状況収集等のため、リエゾンを21市町村等へ派遣。テックフォースや災対機械の派遣調整等を実施。
- 球磨川流域や国道219号を中心に、4県内の15市町村で被災状況調査を実施。8月3日までに、1,718件の施設被害等を報告。激甚災害の早期指定に寄与。(一日あたり最大200人、のべ4,698人)
- 排水ポンプ車等により緊急排水を実施。また、降雨時に備えて排水ポンプ車を配備(一日あたり最大56台、のべ1,999台)

自治体支援ニーズの把握(リエゾン)

村長へ災害対応を助言。庁舎が被災した球磨村へ災対本部車を派遣し本部運営を支援。



村長と対応方針を調整(熊本県球磨村)

浸水の早期解消に向けた排水作業

球磨川、筑後川周辺等の浸水に対し、九州全体約50台体制で排水を実施。



排水活動状況(福岡県久留米市)

被災状況調査(河川)

甚大な被害を受けた球磨川流域を中心に、被災状況調査を実施し、復旧方針を助言。



球磨川水系川内川(熊本県球磨村)

被災状況調査(砂防)

砂防施設の被災状況や斜面に残る土砂の下流へ流出する可能性等を調査。



砂防施設の被災状況を調査(熊本県五木村)

広域被災状況調査

防災ヘリコプターにより、上空から浸水状況や土砂災害状況を把握。復旧活動の迅速実施。



はるかぜ号による上空からの調査を実施

路面清掃車等の活動

路面清掃車等により路面に堆積した粉塵を除去し、被災者の生活再建を支援。



路面清掃車での粉塵除去(熊本県人吉市)

被災状況調査(道路)

球磨川本川および支川において14橋が流失。寸断した道路に分け入り、啓開方針を策定。



国道219号(熊本県球磨村)

被災自治体へ報告

施設被害状況等を報告。被災自治体が行う被害額算定や査定設計書作成等を支援。



各首長へ調査結果報告(熊本県相良村)